



一般社団法人日本地域医療学会  
Japanese Association of Community Healthcare

抄録集：先行版 (2023.9.13 現在)

※随時更新します！

## 理事長：ご挨拶

平素より日本地域医療学会の運営につきましては、深い御理解と格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今般、「第2回学術集会」を令和5年12月15日(金)、16日(土)及び17日(日)の3日間、三重県志摩市において「賢島宝生苑」を主会場に開催いたします。本学術集会は、メインテーマを『地域医療から日本を再興する～答えのない新たな冒険へ～』と掲げ、三重県から全国へ取り組みを発信します。

高齢化が進む日本では複数疾患を併存し、医療ニーズだけではなく介護・福祉ニーズも併せ持つ患者が増え、地域全体で治し・支え・寄り添う医療への転換が進んでいます。このような医療を実現するための担い手として、地域で幅広い疾患と多様な課題を抱える患者を継続的・包括的に診療できる総合診療医が求められています。地域では病気を診るだけでなく患者さんの人生に寄り添い、地域包括ケアを実践できる医師が必要です。今、時代は人と地域をまるごと診ることができる「地域総合診療専門医」を求めています。今回の学術集会では、地域総合診療専門医のありたい姿を探るとともに、これからの展望について多才なゲストを招き議論を深めることを目的に開催いたします。多くの皆様にご参加いただきますようどうかよろしく願いいたします。

# 地域医療から 日本を再興する

～答えのない新たな冒険へ～

## 第2回 日本地域医療学会 学術集会

日時 令和5年12月15日(金)・16日(土)・17日(日)

会場 伊勢志摩近鉄リゾート 賢島宝生苑  
三重県志摩市阿児町神明718番地の3(賢島)

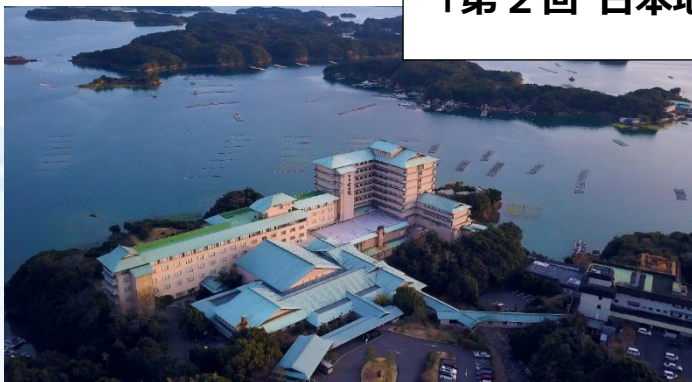
学会長 江角 悠太 志摩市長病院長(日本地域医療学会理事)

学会URL <https://www.jach.or.jp/2gakujuutu/>



一般社団法人日本地域医療学会  
Japanese Association of Community Healthcare

## 「第2回 日本地域医療学会 学術集会」会場案内図



### ■学会 URL

<https://www.jach.or.jp/2gakujuutu/>

### ■住所

〒517-0502

三重県志摩市阿児町神明

718番地の3(賢島)

伊勢志摩 近鉄リゾート

**賢島 宝生苑(ほうじょうえん)**

TEL : 0599-43-3111

### ■近鉄賢島駅からの所要時間

・送迎バスにて約3分





一般社団法人

日本地域医療学会

理事長 小野 剛(おの つよし)

経歴

昭和58年3月 自治医科大学医学部 卒業  
 昭和58年6月 秋田大学医学部附属病院 第一内科  
 昭和60年6月 町立羽後病院 内科科長  
 平成3年6月 秋田大学医学部附属病院 第一内科  
 平成5年5月 秋田大学医学部 助手  
 平成7年10月 秋田大学医学部附属病院 講師  
 平成8年4月 町立大森病院 院長  
 平成10年4月 大森町保健医療福祉総合施設「健康の丘おおもり」  
 管理者兼院長  
 平成17年10月 市立大森病院 院長（市町村合併により名称変更）  
 現在に至る

賞 罰

平成19年8月 全国自治体病院協議会 へき地医療貢献者表彰  
 平成21年6月 山下太郎顕彰育英会 第18回山下太郎地域文化  
 奨励賞  
 平成23年2月 住友生命社会福祉事業団 第4回地域医療貢献奨励賞  
 平成26年2月 読売新聞社 第42回医療功労賞  
 平成28年10月 国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰  
 学会及び社会貢献活動・その他

【社会貢献活動等】

全国国民健康保険診療施設協議会 会長  
 一般社団法人 日本地域医療学会 理事長  
 自治医科大学同窓会 会長  
 自治医科大学顧問指導委員会 委員  
 秋田県病院協会 副会長  
 全国自治体病院協議会 理事  
 全国自治体病院協議会 中小病院委員会 委員  
 秋田県医療審議会 委員  
 秋田大学医学部 臨床教授  
 東京医科歯科大学医学部 臨床教授

【資格】

日本内科学会認定医  
 日本消化器病学会専門医  
 日本肝臓学会専門医  
 日本人間ドック学会専門医・指導医  
 日本プライマリケア学会認定医・指導医  
 日本医師会認定産業医・認知症サポート医



第2回日本地域医療学会 学術集会

学会長 江角 悠太 (えすみ ゆうた)

志摩市民病院長

日本地域医療学会 理事

経歴

東京出身

2000年、東京都立西高等学校卒業  
 2009年、三重大学医学部卒業  
 2009年、沖縄中部徳洲会病院 初期研修医  
 2011年、三重大学家庭医療総合診療科 亀山医療センター 名張市立病院 県立一志病院  
 2014年、ピースボート船医  
 2014年12月 志摩市民病院内科  
 2016年、同病院長 総合診療科  
 2018年、全国自治体病院協議会三重支部長  
 2019年、地域包括ケア病棟協会理事  
 2020年、地方創生医師団（TAO 医師団）団長  
 2021年、全国自治体病院協議会中小病院委員  
 2022年、日本地域医療学会理事、三重県病院協会理事  
 全国自治体病院協議会地域包括医療・ケア認定審査委員

教育関連、所属資格)

NPO 法人Touch the future 理事  
 一社未来の大人応援プロジェクト 理事  
 三重大学医学部 臨床講師  
 コミュニテック看護助産専門学校 非常勤講師  
 名古屋医専 非常勤講師  
 鈴鹿医療科学大学 非常勤講師  
 皇學館大学 非常勤講師  
 東京医科歯科大学医学部 非常勤講師  
 日本専門医機構 総合診療特任指導医  
 日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医 指導医  
 日本地域医療学会 地域総合診療指導医

## シンポジウム I

## 「精神医療従事者、地域医療従事者が集い、新たな旅路を祝したい！！」

地域総合診療医にとって精神医療領域の知識や経験は必須である。高齢者診療の中で、認知症やうつ病などは高血圧症や糖尿病と同様に common disease になりつつある。また、せん妄、不眠、アルコール、ストレスなどプライマリケア領域でよくある症状のマネジメントができるようになる事も必須であると考えらえる。

また、精神医療領域でも患者の高齢化しており、多疾患併存のマネージメントは必須であり、総合診療領域の知識や経験は必須となっている。よって、総合診療と精神医療との親和性はこれからさらに高まってくるが見込まれる。しかし、精神医療に従事する医師と総合診療に従事する医師同士が同じ学会の中で、議論を深めていく機会ほとんどなかったのが現状で、日本地域医療学会こそが、今後の地域医療分野における、精神医療と総合診療の新たな形を創造していく格好の場であることは間違いない。

今回、そのきっかけとなるシンポジウムを出端で行うことは、今後この領域をさらに発展させていくという日本地域医療学会の意気込みを感じるとともに、今後も継続的に共創することが今後の日本の地域医療にとって大きな財産になることを臨んでいる。



北村 立 (きたむら たつひろ)

日本地域医療学会 理事

座長

## 経歴

【所属】石川県立こころの病院

## 【学歴・職歴】

1962年2月 石川県金沢市生まれ

1987年3月 自治医科大学卒

1987年6月 石川県厚生部技術吏員(医員)

1987年6月 石川県立中央病院初期臨床研修医

1988年10月 市立輪島病院触倉診療所

1989年4月 公立穴水総合病院兜診療所

1992年4月 石川県立高松病院

2004年4月 同院診療部長

2007年4月 同院副院長

2009年4月 石川県認知症疾患医療センター所長を兼任

2013年4月 石川県立高松病院院長

2021年11月 病院名変更に伴い、石川県立こころの病院院長

## 【資格】

医学博士

精神保健指定医

専門医・指導医：日本精神神経学会、日本老年精神医学会、日本認知症学会

## 【団体】

全国自治体病院協議会常務理事・精神科特別部会部会長

日本病院会理事、全国公私病院連盟理事、日本公的病院精神科協会理事

日本老年精神医学会理事、日本地域医療学会理事

## 【教育】

金沢大学医薬保健学域医学類臨床教授(学外)

金沢医科大学臨床教授(学外)

自治医科大学臨床教授(地域担当)



岩田 和彦 (いわた かずひこ)

## (現職)

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 院長

## (略歴)

1992年 自治医科大学卒

1992年 大阪府立病院(現 大阪急性期・総合医療センター) 研修医

1994年 大阪府門真保健所

1996年 大阪府立こころの健康総合センター

2001年 自治医科大学精神医学教室

2008年 大阪府立精神医療センター

2009年 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 臨床情報疫学分野

2010年 大阪府立精神医療センター

2019年～ 大阪精神医療センター 院長 現在に至る

(2017年4月から「大阪府立精神医療センター」は「大阪精神医療センター」に改称)



中瀬 真治 (なかせ しんじ)

## 学歴：

昭和63年3月 三重大学医学部医学科卒

平成7年12月 三重大学大学院医学研究科修了

## 職歴：

昭和63年6月より三重大学医学部附属病院、三重県立志摩病院、松阪市民病院での勤務を経て、

平成16年7月より三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿厚生病院、

平成27年4月同院院長

## シンポジウムⅡ

### 「“地域医療”という言葉の根底にある意味を探し求める旅」

“地域医療”を広辞苑で調べると、地域住民の健康状態の向上と回復のため、地域における医療施設の機能の連携、在宅医療体制の整備を図る対策や活動、と書いてある。この文章を読んで、その通りだ！ と思う医師はほとんどいないだろう。そもそも“地域医療”という言葉を使用するときに、人によって全く異なる意味合いで使用している可能性が高い。今回、さまざまな立場、場所で地域医療をおこなっている方々から意見を集い、日本地域医療学会の中で使用する、“地域医療”という言葉の意味をある程度、共有し共通認識のもとで発信できるよう議論する会となる。ぜひ、参加者の皆様の多種多様な意見が集まることを臨む。

#### 邊見 公雄（へんみ きみお）

日本地域医療学会 理事

経歴

出生

昭和19年2月26日 生

略歴

昭和43年9月 京都大学医学部卒業

昭和45年3月 大和高田市立病院 外科医員

昭和47年4月 京都大学医学部附属病院 第二外科医員

昭和53年2月 赤穂市民病院 外科医長

昭和62年4月 赤穂市民病院 病院長就任

平成21年4月 赤穂市民病院 名誉院長就任

資格

昭和44年1月 医師免許

昭和54年3月 京都大学医学博士

役職

特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会JAPAN 会長

一般社団法人全国公私病院連盟会長

公益社団法人全国自治体病院協議会名誉会長

京都大学学際融合教育研究推進センター・超高齢社会デザイン価値創造ユニット特任教授

一般社団法人日本専門医機構前理事

NPO 法人ベッツ・フォー・ライフ・ジャパン名誉理事長

一般社団法人日本病院会参与（元常任理事）

元兵庫県参与 平成21年4月～令和4年3月（13年間）

兵庫県医療審議会副会長

徳島県交流大使

関西広域救急医療連携計画推進委員会会長

赤穂市観光大使

京都大学医学部附属病院運営顧問会議委員

公立大学法人奈良県立医科大学学外有識者委員会委員

京都府公立大学法人経営審議会委員

公立大学法人奈良県立医科大学学外有識者委員会委員

公益社団法人日本人間ドック学会元理事（元サーベヤー）

公益財団法人日本医療機能評価機構理事（元サーベヤー）（先日退任）

同志社大学大学院アドバイザー・ボード（終了）

有限責任中間法人京都大学外科交流センター相談役（初代会長）

特定非営利活動法人日本医療経営機構理事

地域医療福祉情報連携協議会名誉会長

一般社団法人健康・医療・教育情報評価推進機構 最高顧問

日本HPH ネットワーク 顧問

2018.4 ひょうご人生100年時代プロジェクト推進委員

日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会 理事（休会中）

2007. 地域医療福祉情報連携協議会 名誉会長

2019.6 特定非営利活動法人卒業臨床研修評価機構 理事

また、

厚生労働省社会保障審議会医療部会委員並びに医療分科会委員

（2005.9 ～ 2011.10 中央社会保険医療協議会委員）

をはじめとする国・県・自治体等多数の要職を兼任してきた



座長

#### プレゼンター

#### 江角 悠太（えすみ ゆうた）

（公益社団法人全国自治体病院協議会）



#### 内田 望（うちだ のぞむ）

（公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会）



#### 石川 賀代（いしかわ かよ）

（一般社団法人地域包括ケア病棟協会）



#### 矢野 諭（やの さとし）

（一般社団法人日本慢性期医療協会）



#### 上野 雄文（うえの たけふみ）

（一般社団法人日本公的病院精神科協会）



#### 藤森 勝也（ふじもり かつや）

（全国厚生農業協同組合連合会）



#### 橋本 有紗（はしもと ありさ）

（NPO法人LMC（地域医療・介護研究会JAPAN））



提出依頼中

## 7 団体代表との懇談会（仮題）

※宝生苑自慢の露天風呂で疲れを癒したのちにご参加ください。

新企画準備中

乞うご期待！！！！

### 出演者



小熊 豊 (おぐま ゆたか)  
全国自治体病院協議会会長



小野 剛 (おの つよし)  
全国国民健康保険診療施設協議会会長



仲井 培雄 (なかい ますお)  
地域包括ケア病棟協会会長



橋本 康子 (はしもと やすこ)  
日本慢性期医療協会会長



岩田 和彦 (いわた かずひこ)  
日本公的病院精神科協会



藤森 勝也 (ふじもり かつや)  
全国厚生農業協同組合連合会



邊見 公雄 (へんみ きみお)  
全国公私病院連盟会長

聴き手 ※江角悠太先生も聴き手で参加します。



齊藤 健一 (さいとう けんいち)  
京都大学大学院医学研究科附属医療 特定助教  
大阪府大阪市西成区生まれ  
2014年 三重大学医学部医学科卒業  
2020年 京都大学大学院博士課程入学  
2021年 京都大学医学部附属病院  
医療情報企画部 特定助教  
2023年 京都大学大学院医学研究科  
附属医療 DX 教育研究センター 特定助教  
麻酔科医 Isha Radio パーソナリティ



松波 山水 (まつなみ さんすい)  
いおうじ応急クリニック  
経歴  
2015年 三重大学医学部医学科 卒業  
同年 三重大学医学部附属病院 初期研修医  
2017年 三重大学医学部附属病院 整形外科  
2018年 鈴鹿回生病院 整形外科  
2019年 紀南病院 整形外科  
2020年 三重大学医学部附属病院 整形外科  
2022年 紀南病院・武内病院 整形外科  
2023年 医王寺会いおうじ応急クリニック 在宅医



提出依頼中

細井 敬 (ほそい たかし)  
紀南病院整形外科

## 「次世代リハビリの展望—腰 HAL 研究とロボケアセンターの現状と展望—」

CYBERDYNE 社が開発した HAL® (Hybrid Assistive Limb) は、身につけた人の意思に従い動作をアシストする世界初の装着型サイボーグです。腕や脚を動かすだけではなく脳神経系と繋がり、ヒトと一体化することで、脳神経・身体系の機能が低下した人の、機能を改善・再生・拡張します。中でも HAL 腰タイプはロコモティブシンドローム、フレイル、パーキンソン病症候群、廃用症候群、心疾患、大腿骨頸部骨折、慢性腰痛等に対して効果を発揮し、HAL の使用をやめても持続するという報告が多数あります。ロボケアセンターで一人でも多くの患者さんや介護・福祉利用者さんが地域社会や在宅生活で活躍できるように、その成果が一つでも多くのエビデンスに繋がるように、と願って本講演を企画いたしました。

## 安永 好宏 (やすなが よしひろ)

CYBERDYNE, Inc. 特任役員 営業本部長  
ロボケアセンターグループ 代表



## 経歴

安永 好宏 博士 (医学)  
福祉住環境コーディネーター  
ホームヘルパー 2級  
福祉用具専門相談員  
USCPA / 米国公認会計士  
USCMA / 米国公認管理会計士  
CIA / 公認内部監査人  
1997年3月 獨協大学経済学部卒業  
1997年4月 株式会社 武富士  
2002年7月 タイコヘルスケアジャパン株式会社 財務経理部  
2006年10月 オン・セミコンダクターテクノロジー株式会社 財務経理部長兼管理部長  
2008年4月 CYBERDYNE 株式会社 経営管理部長  
2013年1月 CYBERDYNE 株式会社 営業部門責任者 (本部長)  
2013年4月 鈴鹿ロボケアセンター株式会社 代表取締役 兼務 (現任)  
2013年8月 大分ロボケアセンター株式会社 代表取締役 兼務 (現任)  
2017年11月 SUMS 株式会社 社外取締役 (現任)  
2018年4月 湘南ロボケアセンター株式会社 代表取締役 兼務 (現任)  
2019年2月 岡山ロボケアセンター株式会社 取締役 兼務 (現任)  
2019年6月 CYBERDYNE 株式会社 取締役 営業部門責任者 (本部長)  
2020年4月 早稲田大学 人間科学学術院 非常勤講師 (現任)  
2020年4月 MOVETEX 株式会社 社外取締役 (現任)  
2022年4月 福島県立医科大学 リハビリテーション医学 非常勤講師 (現任)  
2023年6月 CYBERDYNE 株式会社 特任役員 営業部門責任者 (本部長) (現任)

## 仲井 培雄 (なかい ますお)

日本地域医療学会 理事



座長

## 経歴

## ◆略歴:

1985年 自治医科大学医学部卒  
1987年 舩へ 倉ぐら島じま診療所長  
1988年 白しらみねむら峰村診療所長  
1989年 金沢大学附属病院第2 外科入局、以降石川・富山両県の主要病院に勤務  
1999年 医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院外科部長  
2001年 医療法人社団 和楽仁 副理事長  
2004年 医療法人社団 和楽仁 理事長  
2012年 社会福祉法人 陽ひ 翠すい水すい 理事長、ほうじゅグループ代表  
2014年 地域包括ケア病棟協会 初代会長

## ◆主な役職:

## &lt;全国&gt;

- 一般社団法人 地域包括ケア病棟協会 会長
- 一般社団法人 日本慢性期医療協会 常任理事
- 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 理事
- 日本リハビリテーション医学教育推進機構 学術理事
- 日本在宅救急医学会 理事
- 一般社団法人 日本地域医療学会 副理事長
- 一般社団法人 日本医療・病院管理学会 理事
- 日本病院団体協議会 代表者会議 メンバー
- 日本病院団体協議会 診療報酬実務者会議 メンバー
- 地域医療を守る病院協議会 メンバー
- 公益社団法人日本医療機能評価機構 評価事業運営委員会 委員
- 厚生労働省 医薬・生活衛生局「高齢者医薬品適正使用ガイドライン作成ワーキンググループ」委員 (2017.8 ~ 2019.5)
- 厚生労働省 老健局「介護保険総合データベースに格納するデータの第三者提供に関する有識者会議」委員 (2018.3 ~ 2020.6)
- 厚生労働省 保険局医療介護連携政策課「国保データベース (KDB) を用いた医療・介護連携に係る地域の特色に関する調査研究」検討会 委員
- 厚生労働省 令和4 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健増進等事業分)「リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組に関する調査研究事業」検討委員会副委員長
- 厚生労働省 老健局 令和4 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健増進等事業分)「介護老人保健施設の目的・特性を踏まえた施設の在り方に関する調査研究事業」班員

## &lt;県内&gt;

石川県医療計画推進委員会地域医療構想策定部会 委員  
石川県病院協会 理事

◆主な資格: 日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会指導医・専門医。  
いしかわ技術経営 (MOT) スクール修了。

## 三浦 紘世 (みうら こうせい)

筑波大学医学医療系整形外科



## &lt;略歴&gt;

2008年3月 筑波大学医学専門学群 卒業  
2008年4月 筑波メディカルセンター病院研修医  
2010年4月 筑波大学医学医療系整形外科入局  
2010年4月 関連病院にて研修  
2015年4月 筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻 入学  
2017年11月 筑波大学医学医療系整形外科運動器再生医療学寄付講座助教  
2018年5月 筑波大学附属病院リハビリテーション部病院助教  
2019年3月 筑波大学人間総合科学研究科疾患制御医学専攻 修了  
2019年4月 筑波大学附属病院リハビリテーション部病院講師  
2021年6月 筑波大学医学医療系整形外科講師 (現職)  
<専門> 整形外科 (脊椎脊髄)  
<所属学会> 日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本脊椎インストルメンテーション学会、日本脊髄障害医学会、日本成人脊柱変形学会、関東整形災害外科学会、国際頸椎学会日本機構、Asia Pacific Spine Society Life member、Asia Pacific Orthopaedic Association Life member  
<受賞歴>

1. 日独整形災害外科学会 令和4 年度フェローシッププログラム, Germany, 2022
2. 第29 回脊椎インストルメンテーション学会小野村敏信 Presentation Award 最優秀口演賞, 2020
3. 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団 令和2 年度(第46 回) 研究助成 鈴木賞
4. 日本脊椎脊髄病学会第14 回 Asia Traveling Fellowship program, Hong Kong, Vietnam, 2019
5. 第28 回脊椎インストルメンテーション学会小野村敏信 Presentation Award 最優秀口演賞, 2019

## A 会場 シンポジウムⅢ

### 「地域医療なくして地方創生はあり得ず。JACH から始める、本当の地方創生への旅」

日本全体で少子高齢化人口減少が囁かれ、消滅可能都市、地方創生という言葉が出てきて 10 年ほど。昨今、消滅国家と呼ばれるようになってきた日本が、今後どのように国を存続していくのか。東京一極集中の是正、地方創生がより発展するために、地域医療従事者は今後どのように活躍していくべきか。今後の日本の見通しを含めた展望を第 1 次産業分野、教育分野、IT、国行政、介護の分野それぞれの有識者をお呼びして、参加者と共にディスカッションしていこうと思います。地域医療従事者と各分野との協働により、今後の日本を再興する。最も困難で、最も夢のある議論に是非ご参加ください。



#### 鈴木 宣弘 (すずき のぶひろ)

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

1958 年三重県生まれ。1982 年東京大学農学部卒業。農林水産省、九州大学教授を経て、2006 年より東京大学教授。98～2010 年(夏季) コーネル大学客員教授。2006～2014 年 学術会議連携会員。一般財団法人

「食料安全保障推進財団」理事長。『食の戦争』(文藝春秋、2013 年)、『貧困緩和の処方箋：開発経済学の再考』(筑波書房、2021 年)、『農業消滅』(平凡社新書、2021 年)、『協同組合と農業経済～共生システムの経済理論』(東京大学出版会、2022 年、食農資源経済学会賞受賞)、『世界で最初に飢えるのは日本』(講談社、2022 年)、『マンガでわかる 日本の食の危機』(方丈社、2023 年)他、著書多数。



#### 井上 貴至 (いのうえ たかし)

山形市副市長

1985 年、大阪生まれ。

2008 年、東京大学法学部卒業後、総務省入省。

2015 年 4 月、地方創生人材支援制度の第 1 号で、総務省から鹿児島県長島町に派遣、同年 7 月に、副町長(地方創生担当)に選任。ぶり奨学金など地域の課題を捉えたユニークな施策が全国的な注目を集めた。

2017 年 3 月の副町長退任後、愛媛県庁出向を経て 2019 年 4 月、総務省に復帰。

2021 年 7 月、「健康医療先進都市」を目指す山形市の副市長に就任。



#### 野中 亮宏 (のなか あきひろ)

エムスリーエディケーション(株) 社長

東京大学卒業後、株式会社リクルート入社。人事・営業・事業企画を経てリクルートホールディングスの経営企画へ。分社化/株式公開/投資計画/新規事業コンテストなどの経営テーマ議論の事務局を務める。

2015 年 5 月より「医療×IT」のエムスリー株式会社にて子会社経営に従事。合併後の統合プロセスにおける経営企画を主に担当。

2017 年より「地域医療」をテーマとした新規事業立ち上げに従事。2020 年 7 月より、医療系教育事業を展開するエムスリーエディケーション株式会社の代表取締役社長に就任。



#### 岸川 政之 (きしかわ まさゆき)

一般社団法人未来の大人応援プロジェクト 理事長

1957 年 8 月 15 日生まれ。大学卒業後、1982 年多気町入庁。32 年間の公務員生活の中で一番の思い出は、地元素晴らしい高校生や先生と出会い、感動し、彼らの輝けるステージとして高校生レストラン「まごの店」の設立に取り組んだこと。

2015 年 3 月末で多気町を退職し、現在は

①(株)百五銀行公務部シニアアドバイザー

②皇學館大学現代日本社会学部教授

③一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト 代表理事

の 3 つのステージにチャレンジしている。

主事業の一つである「地域ビジネス創出事業(SBP)」は、現在 100 近くの高校が取り組んでいる。



#### 長嶺 由衣子 (ながみね ゆいこ)

厚生労働省老健局老人保健課 課長補佐

【経歴】

一橋大学、長崎大学卒業後、沖縄県立中部病院にて医師臨床研修に従事。沖縄県東国島で一人診療所医師として離島医療・地域包括ケア構築に従事後、ロンドン大学にて疫学修士、千葉大学にて公衆衛生学博士取得。社会疫学研究を行う傍ら、データに基づく介護予防や健康なまちづくりに関する市町村との協業、民間企業等とともに SIB(ソーシャルインパクトボンド)事業の構築などを行う。

2020 年 4 月より東京医科歯科大学介護・在宅医療連携システム開発学講座にて神奈川県で在宅診療所の立ち上げを行い、在宅現場での新型コロナ対応を行う。2021 年 9 月より同大学東京都地域医療政策学講座にて東京都地域医療構想アドバイザーに従事。2022 年 7 月から現職。

「日本地域医療学会『地域総合診療専門医制度』」

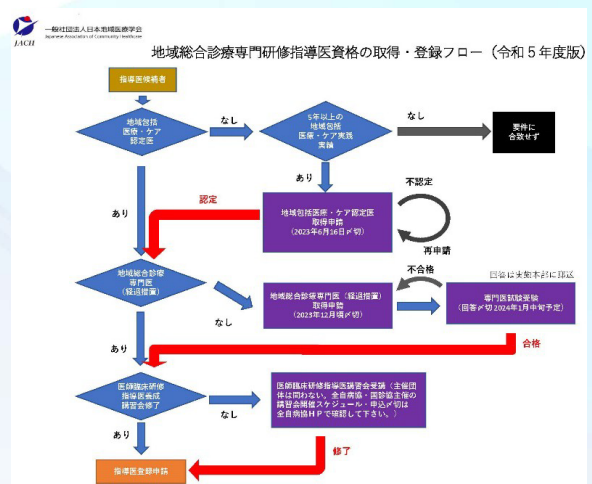
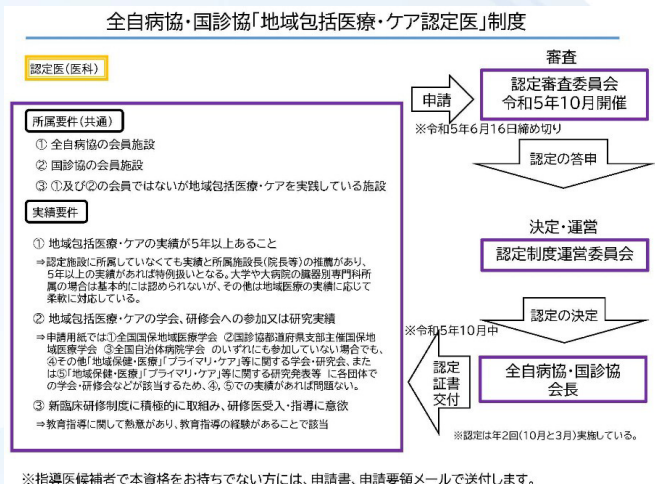
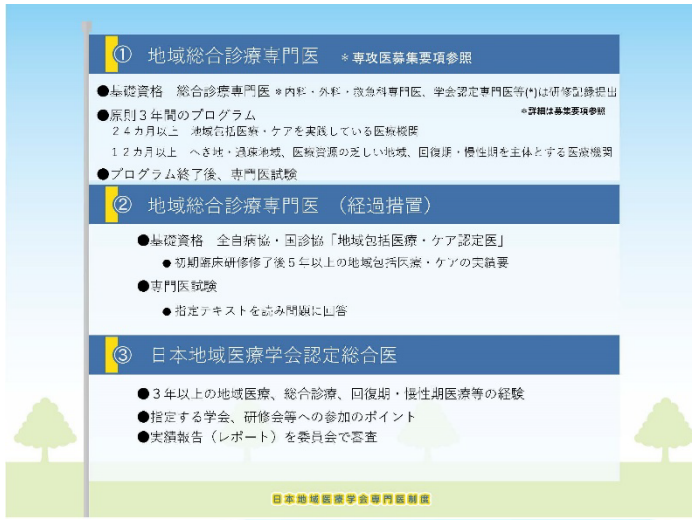
2025 年が目前に迫る日本の多くの地域では、高齢化と人口減少が急速に進んでいる。そこには、複数の慢性疾患を持ち、医療ニーズだけではなく介護ニーズも併せ持つ高齢患者が多く暮らしている。このような状況の中で地域医療の現場では「治し・支え・寄り添う医療」への転換が求められ、多職種連携による地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっている。これからの地域医療に求められる医師は、地域包括ケアを実践でき、「ひとと地域をまるごと診る」視点を持った地域総合診療専門医と考える。日本地域医療学会は地域総合診療専門医の育成をめざして設立され、専門医制度もほぼ構築され、今年度から専攻医の募集を開始した。本講演では、専門医制度の概要や資格要件等について説明するとともに、今後の方向性についても言及したい。



大原 昌樹 (おおはら まさき)  
日本地域医療学会副理事長

経歴

- 昭和 60 年 (1985 年) 3 月 自治医科大学医学部卒業
- 昭和 60 年 (1985 年) 6 月 香川県立中央病院 研修医
- 昭和 62 年 (1987 年) 三豊総合病院 医員・副医長・医長・管理医長
- 平成 17 年 (2005 年) 4 月~現在
- 綾川町国民健康保険陶病院 院長
- 綾川町国民健康保険保健施設綾南 (えがお) 所長
- 全国国民健康保険診療施設協議会副会長
- 香川県国保診療施設協議会会長
- 香川県介護支援専門員協議会会長
- 香川県医師会常任理事 (介護保険・在宅療養・認知症・プライマリケア担当)
- 香川大学・愛媛大学・神戸大学・自治医科大学医学部非常勤講師



※指導医候補者で本資格をお持ちでない方には、申請書、申請要領メールで送付します。



## A会場 シンポジウムV

### 「ライフイベント×医師キャリアシンポジウム」

居住居住地の利便性や子供の教育環境等を考慮して、地域医療への従事を好意的に捉えたいケースが存在する。実際に地域医療を志向する医学生においても、15%が地域医療への貢献とライフイベントの両立を懸念している\*1。本シンポジウムは、地域医療に従事する医師やその配偶者との対話を通じ、多種多様なパートナーシップとそこに至るまでの過程を知ることで、ライフイベントとキャリアの両立に悩む医学生/若手医師の懸念解消の一助となることを目的としている。

\*1 第1回日本地域医療学会学術集会学生アンケート

### 司会



川合 菜加(かわい なか)  
鹿児島大学医学部 4年



島津 里彩(しまづり さき)  
神戸大学医学部 2年



上西 凜太郎(かみにし りんたろう)  
島根大学医学部 3年

### 湊 しおり(みなと しおり)

福島県いわき市出身。2012年広島大学卒、青森県八戸市での初期研修を経て愛知県で整形外科後期研修をスタート。同時期に、王子様との結婚を夢見て婚活も開始するも、のべ200人と出会っては惨敗を繰り返す。2017年によやく結婚。現在は総合診療科専攻医をしながら整形外科診療も行っている。プライベートでは専業主夫と犬猫に塗れた生活を送り、これまでの恥を垂れ流したコラムを書いて生きている。



### 向原 千夏(むこうはら ちなつ)

1991年に津市で生まれ、2017年に三重大を卒業。名張市立病院・三重大病院にて初期研修を行ったあと、三重県を飛び出し、滋賀家庭医療学センター/弓削メディカルクリニックにて総合診療科の後期研修を行う。2023年4月より地元津市の津ファミリークリニックにて勤務しながら、三重家庭医療専門研修プログラムで学んでいる。

### 前田 達慶(まえだ たつよし)

1976年、神戸生まれ。言語聴覚士。医学博士。回復期で3年、訪問看護ステーションで15年勤務。今年度は三重県子ども心身発達医療センターにて勤務。

兵庫県ですと仕事をしなかなと思っていたら、44歳で三重大の地域枠の医師と結婚。いい意味で先の見えない人生が始まりました。1児の父です。

### 助永 親彦(すけなが ちかひこ)

平成16年 大阪市立大学医学部医学科卒業  
平成16年6月～平成18年5月 八尾市立病院 臨床研修医  
平成18年6月 八尾市立病院 麻酔科医員  
平成21年3月 助永病院 院長  
平成21年9月 八尾市立病院 集中治療部副医長  
平成25年4月 隠岐広域連立隠岐病院 麻酔科医長  
平成27年4月 隠岐広域連立隠岐病院 救急科部長(麻酔科医長併任)  
平成29年4月 隠岐広域連立隠岐病院 副診療部長(麻酔科部長併任)  
令和2年4月 隠岐広域連立隠岐病院 島の医療人育成センター長  
令和5年4月 隠岐広域連立隠岐病院 医療安全管理室長  
所属学会：日本麻酔科学会、日本臨床麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、日本医学シミュレーション学会、日本へき地離島救急医療学会  
資格など：元・日本麻酔科学会 麻酔科専門医  
米国集中治療医学会 FCCS コースインストラクター  
日本シミュレーション学会 CVC、SED インストラクター/臨床研修指導医  
医療安全管理者/ASUISHI ドクター

### 助永 恵里(すけなが えり)

■ H27.6月末に大阪から隠岐に移住  
隠岐の島町役場農林水産課  
地域おこし協力隊  
■ 県男女共同参画サポーター  
■ 隠岐の島町総合振興計画審議員  
■ 妊活中にマルチワーカー3社掛け持ち  
■ 社会福祉協議会  
・後見請負人支援員等  
■ 隠岐看護学校 学校運営協議会委員  
■ 隠岐病院地域交流会の設立  
■ R4.5.10から双子を出産し、ママになる！  
現在は、社会活動をしながら、在宅ワークをして、子育て奮闘中です。



## A 会場 地域医療サミット

### 「これが地域医療の醍醐味。住民と共に作り、共に歩む旅」

高度急性期医療と異なり、地域医療とは住民と共に作り上げていくという特性がある。医療の目的が、病気を治療することと共に、人生を豊かにすることが加わるからである。そしてその人生の豊かさとは、物差しでも測れず、一般化もできず、それぞれの地域、それぞれの人によって多種多様に異なる。よって、各患者によってオーダーメイドでなければならず、

その答えは医学書でなく、個々人のそれまでの人生の中にある。それは大いにその地域の文化や慣習、気候、歴史が影響するため、住民が医療チームの一員になることが重要である。そのことをこの住民参加型ワークショップで医療従事者、地域住民ともに共有できることを臨む。

みんなで話そう！  
～地域医療でのまちづくり～



座長

第 2 回日本地域医療学会 学術集会  
学会長 江角 悠太 (えすみ ゆうた)  
公益社団法人全国自治体病院協議会志摩市民病院長  
日本地域医療学会 理事



吉田 学 (よしだ まなぶ)

- 1984 (s59) 年 厚生省入省
- ・ 山口県高齢保健福祉課長、国立病院機構企画経営部長などを担当
- 内閣官房社会保障改革担当室 (社会保障制度改革国民会議事務局) 審議官
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長 / 子ども家庭局長
- 厚生労働省医政局長 : 2018 (H30) 年 7 月 ~
- 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策室長 : 2020 (R2) 年 9 月 ~
- 厚生労働事務次官 : 2021 年 10 月 ~ 2022 年 6 月

現在

- ・ 多摩大学医療・介護ソリューション研究所 客員教授
- ・ 国立大学法人三重大学 特命教授 (病院担当)
- ・ 社会福祉法人日本保育協会 理事長
- ・ 損害保険ジャパン株式会社 顧問

12月16日(土) B会場

B会場 7:30~

「Dr.白石の超音波朝練エコー」

学生、若手医師の皆さん、エコー使ってますか？！

胸痛・腹痛のファーストタッチで素早い問診身体所見超絶重要です。それに加えて、診断精度を上げるのがエコー診療です。

E-FAST はもちろん、プラスアルファのエコーの技をお教えいたします。

※会場にて実演もいたします。



白石 吉彦 (しらいし よしこ)

略歴

1992年 自治医科大学卒、徳島で研修、山間地のへき地医療を経験。

1998年に島根県の隠岐諸島にある島前診療所(現隠岐島前病院)に赴任。

2001年には院長

2021年より隠岐島前病院参与となり、島根大学医学部附属病院総合診療医センター長に就任。

2014年第2回日本医師会赤ひげ大賞受賞

2021年日本プライマリ・ケア連合学会 第14回田坂賞受賞

## B会場 シンポジウムⅣ

- ① 「研修医からの困りごと相談室～臨床編～」
- ② 「研修医からの困りごと相談室～キャリア編～」

6名の迷える子羊達（初期研修医）が抱える、日々の診療での困りごとから将来のキャリアプランまで、7名の巨人たちにズバッと解決してもらいます！



座長

第2回日本地域医療学会 学術集会  
副会長 林 俊太（はやし しゅんた）

経歴

2016 琉球大学卒業  
2016-2017 宇治徳洲会病院 初期研修医  
2018-2020 宇治徳洲会病院 救急総合診療科 専攻医  
2021 宇治徳洲会病院 救急総合診療科  
2022- 志摩市民病院 総合診療科

### プレゼンター（6名）



蓮見 伊織  
(はすみ いおり)  
松坂氏市民病院  
初期研修医



中西 新一  
(なかにし しんいち)  
福井県立病院  
初期研修医



城西 勇希  
(しろにし ゆうき)  
松坂氏市民病院  
初期研修医



窪田 祐基  
(くぼた ゆうき)  
中部徳洲会病院  
初期研修医



毛利 啓人  
(もうり けいと)  
京都大学医学部付属病院  
初期研修医



坂倉 星太郎  
(さくら せいたろう)  
鈴鹿中央総合病院  
初期研修医

## コメンテーター（7名）



**青木 眞(あおき まこと)**  
感染症コンサルタント

「経歴」  
1979年弘前大学医学部卒。  
1984年よりKentucky大学等で内科研修後、日本人で二人目の米国感染症専門医となる。米国内科学会・感染症学会の上級会員。  
1992年帰国し、聖路加国際病院、国立国際医療センター（当時）に勤務後、2000年より独立したコンサルタントとして医学士・若手医師の感染症診療教育、抗生物質の適正使用や病院感染管理に関する活動を中心に仕事をする。  
2012年、日経 Medical誌で「日本の医学・医療の礎を作ったリーダーたち」10人の1人に選ばれる。



**徳田 安春(とくだ やすはる)**  
むりぶし沖縄臨床研修センター長

1964年沖縄生まれ。  
1988年に琉球大学卒業。  
沖縄県立中部病院にて研修。  
同病院総合内科、聖路加国際病院一般内科、筑波大学水戸地域医療教育センター総合診療科教授、地域医療機能推進機構本部顧問などを歴任。  
2017年より群星（むりぶし）沖縄臨床研修センター長。  
同センターは、8つの基幹型病院と20の協力型病院・施設からなる初期研修プログラムのためのアライアンス・プロジェクトを統括指揮している。



**坂本 壮(さかもと そう)**  
国保旭中央病院 救急救命科 医長

経歴  
1980年生  
2008年4月 順天堂大学医学部附属練馬病院初期臨床研修医  
2010年4月 順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科入局  
2014年4月 順天堂大学大学院 救急・災害教室入学  
2015年5月 西伊豆健育会病院 内科 常勤  
2017年4月 順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科  
西伊豆健育会病院 内科 非常勤  
2019年4月 総合病院国保旭中央病院 救急救命科 医長  
埼玉総合医療センター総合診療内科 非常勤講師



**天野 雅之(あまの まさゆき)**  
南奈良総合医療センター教育研修副センター長

【略歴】  
2012年、自治医科大学卒業（学長賞）  
義務年限中に2か所のへき地診療所所長を経験。南奈良総合医療センターの立ち上げに従事。臨床と並行し NUCB Business school を卒業。義務年限後は引き続き南奈良総合医療センターで地域医療と医学教育に従事している。総合診療における専門領域は「意思決定、不確実性、診断学」  
家庭医療専門医・指導医(優秀ポトフリオ受賞)  
国際認証 Executive MBA  
総合診療特任指導医、病院総合診療特任指導医、内科指導医  
英国家庭医療学会指導医講習会修了  
商業誌を含め多数の執筆歴あり  
代表作  
『病状説明 ケースで学ぶハートとスキル』（2020、医学書院）  
『臨床現場の仕事術』（2023、ジェネリスト NAVI にて連載中）等



**華岡 晃生(はなおか こうせい)**

2012年 金沢大学医学類 入学  
2018年 金沢大学医学類 卒業  
2020年 金沢大学附属病院初期臨床研修プログラム修了  
2023年 北陸総合診療専門研修コンソーシアム金沢大学附属病院プログラム 修了  
2023年4月 石川県立中央病院総合診療科 勤務開始



**田島 幸治(たじま こうじ)**

2015年3月 自治医科大学 卒業  
4月 和歌山県立医科大学附属病院 初期臨床研修  
2017年4月 紀南病院 内科  
2018年4月 国保ささみ病院 内科  
2020年4月 和歌山県立医科大学 救急集中治療部  
2020年10月 和歌山県立医科大学 第一外科学講座（心臓血管外科）  
2022年4月 新宮市国民健康保険直営 熊野川診療所 免許・資格  
2022年 外科専門医  
2023年 地域総合診療専門医専攻医



※白石吉彦先生もコメンテーターで参加します。

## B会場 医療とアート

### 「医療とアートによる地方創生の可能性」

- ・似顔絵セラピー～20年の軌跡～
- ・医療とアートの学校

#### 村岡 ケンイチ(むらおか けんいち)

医療とアートの学校 代表

似顔絵セラピー 代表

イラストレーター

似顔絵セラピスト

医療アート空間プロデューサー

■ 略歴

■ 1982年

広島県出身。東京都在住。

■ 2004年

名古屋芸術大学デザイン学部卒業

■ 2006年

県立広島病院にて「似顔絵セラピー」を発表

■ 2012年

似顔絵セラピーの効果が、医学論文として

日本農村医学会雑誌「第60巻第4号」に掲載。

■ 2019年

日米韓の三か国で行われた

似顔絵国際大会・白黒部門5回優勝。

■ 2020年

・大阪大学医学部附属病院

(小児医療センターホスピタルアート200m)

『星の船』村岡ケンイチ・笹川香織 制作

(企画NPOアートプロジェクト)

・聖マリアンナ医科大学病院 ホスピタルアート

『命の光』村岡ケンイチ・笹川香織 制作

色彩設計 河東梨香

■ 2022年

・第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会にて

【医療とアートの学校】設立

■ 2023年

・第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

3大注目イベントの1つに

【医療とアートの学校】

640平米プロデュース

・WHO(世界保健機構)

西太平洋事務局

【医療とアートの学校】活動発表

はしもと総合診療クリニック様にて

・京都大学大学院医学研究科

社会疫学分野教室の皆様

教授近藤尚己先生に【医療とアートの学校】活動発表



1982年広島県出身。東京都在住。2004年名古屋芸術大学イラストレーション科を卒業後、上京。

2006年に県立広島病院にて「似顔絵セラピー」を発表し、似顔絵セラピストとして医療施設・介護施設を中心に

に似顔絵を通して「心のケア」を提供する活動を開始する。日本テレビ「スッキリ」特集やNHK「日曜美術館アートシーン」

「今夜は絵顔で眠りたい！」で紹介されるなど、メディアにも出演。2012年似顔絵セラピーの効果が、医学論文として

日本農村医学会雑誌「第60巻第4号」に掲載。日米韓の三か国で行われた似顔絵国際大会・白黒部門5連続優勝。

現在は、病院内の壁画を描くホスピタルアーティストとし大学病院等でアート空間プロデュースや、

全国の病院で似顔絵セラピーの活動や講演会を開催する。

2023年・第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会3大注目イベント【医療とアートの学校】開催

・2023年・はしもと総合診療クリニック様にて

WHO(世界保健機構)西太平洋事務局【医療とアートの学校】活動発表。

## B会場 へき地医療サミット

### 「地域枠制度からへき地医療教育を考える」

へき地に医師を根付いてもらう方法として義務年限を設ける制度がある。しかし、全国的に地域枠制度には良い悪しが指摘されている。各々の当事者からの意見交換することで、へき地医療教育の今後の方向性を考える。



第2回日本地域医療学会 学術集会  
副学会長 日下 伸明 (くさかのぶあき)

座長

#### 経歴

2014年 埼玉医科大学卒業  
2014年 亀田総合病院 地域ジェネラリストプログラム初期臨床研修医  
2016年 安房地域医療センター 救急科  
2017年 亀田総合病院 救命救急科  
2019年 亀田総合病院 救命救急科 兼卒後研修センターセンター長補佐  
2021年 亀田総合病院 救命救急科 兼  
在宅診療科 卒後研修センター センター長補佐



橋本 麻里奈 (はしもと まりな)

神戸大学医学部 4年

兵庫県豊岡市出身。近畿大学附属豊岡中学校・高等学校卒業。

神戸大学医学部医学科。全国医療系学生コミュニティ「ちいこ」運営 代表。地域医療に関心のある学生へ、全国各地で合宿・ツアーを企画・実施している。

松波 山水 (まつなみ さんすい)

いおうじ応急クリニック

#### 経歴

2015年 三重大学医学部医学科 卒業  
同年 三重大学医学部附属病院 初期研修医  
2017年 三重大学医学部附属病院 整形外科  
2018年 鈴鹿回生病院 整形外科  
2019年 紀南病院 整形外科  
2020年 三重大学医学部附属病院 整形外科  
2022年 紀南病院・武内病院 整形外科  
2023年 医王寺会いおうじ応急クリニック 在宅医



提出依頼中

岡本 隆二 (おかもと りゅうじ)

三重大学地域医療センター教授



提出依頼中

中桶 了太 (なかおけ りょうた)

平戸市民病院副院長



深瀬 龍 (ふかせ りゅう)

山形県立河北病院

山形県立河北病院 内科(総合診療) / 山形大学医学系研究科先進医科学専攻 医療政策学講座 博士課程  
2013年自治医科大学医学部を卒業後、山形県立中央病院にて初期研修修了。医師3年目からは、最上町立最上病院、山形県立新庄病院にて診療を行う。2018年より山形県立中央病院にて研修後、大蔵村診療所に赴任。2022年4月に山形県立河北病院に着任し、現在に至る。

四方 哲 (しかた さとる)

京都府立医科大学大学院医学研究科教授

#### 【略歴】

1994年 自治医科大学卒業、  
京都府立医科大学附属病院 (研修医)  
1996年 久美浜町国保久美浜病院 (外科医員)  
1999年 京北町国保京北病院 (外科医長)  
2003年 京都大学医学部附属病院 (総合診療科医員)  
2004年 京都大学大学院医学研究科 (臨床疫学研究生)  
2005年 蘇生会総合病院 (外科医長)  
2012年 三重県立一志病院 (総合診療科、病院長)  
2021年 京都府山城広域振興局  
(健康福祉部長兼山城北保健所長)  
2023年 京都府立医科大学大学院医学研究科  
(総合医療・地域医療学教授)



## 「酔いながらのワークショップ」～風呂上がりの座談会～

### 「それぞれの夢から、今後の理想の日本、世界を創造する旅」

ベテラン、中堅、若手、学生がそれぞれの夢を語り合うラウンジ

昔は恥ずかしげもなく夢を語っていた。

いつから人は夢を口にしなくなったのか、いつから恥ずかしいと思うようになったのか。

夢を口にじづらい世界は、夢を実現しにくい。

突拍子もない発見や発想は、人生を楽しむには重要なエッセンスであり、それを叶えようとする姿勢は、暗い世の中に光を与える。

久しぶりに夢を語らう時間があってもいいのではないのでしょうか？

※宝生苑自慢の露天風呂で疲れを癒したのちにご参加ください。



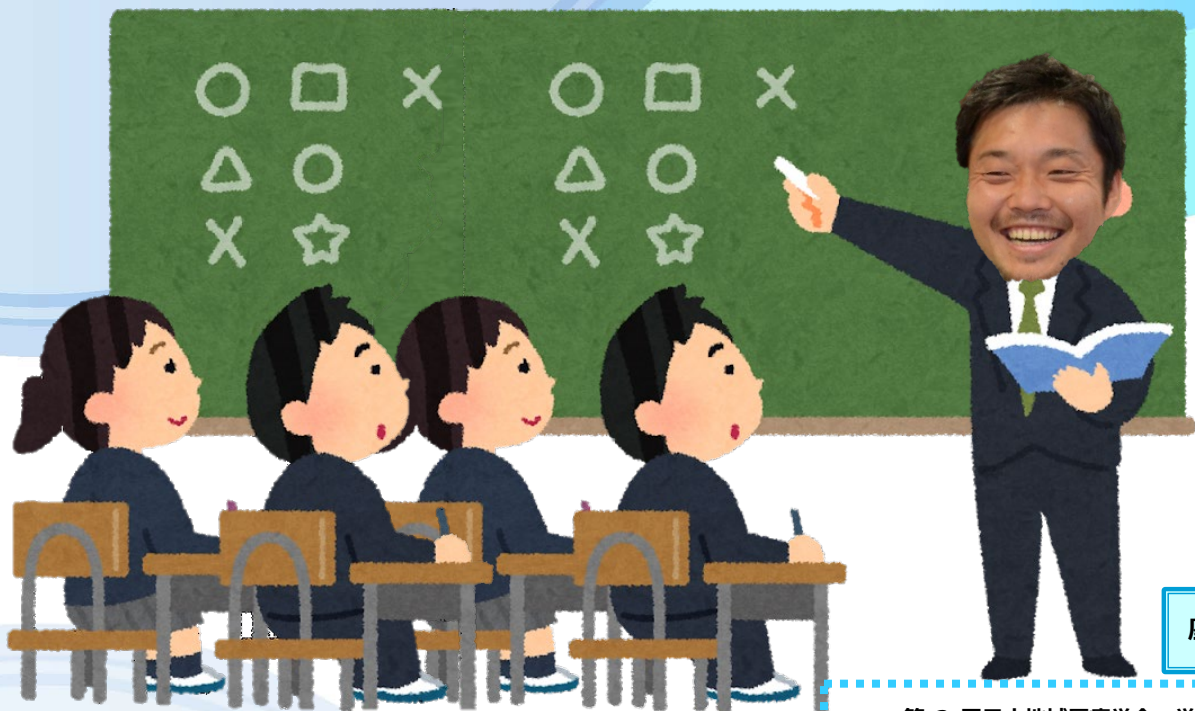


**B会場 シンポジウムVI**

**「20年後の地域医療を担う精鋭たちが織りなす、未来への旅」**

昨今、やっと大学教育の中で地域医療を学ぶ場が出現し始めたが未だ不十分である。そもそも地域医療とは、住民の中にある医療であり、地域住民との関わりなしには地域医療を学ぶことは困難である。大学病院で難しいことを大学病院で学ばなければならないこと自体が不適材不適所であり、地域医療の現場を学べる環境をより多くつくるべきである。

そこで、地域医療の分野を高等教育時代に学習する流れが起こり始めた。高度専門医療と地域医療、それぞれの知識や経験が今後さらに必要になってくる中、地域医療の学習、経験の場を高等教育でより広げていく必要があると感じる。今回地域医療体験学習を行った高校生による発表を機に、より多くの地域医療病院が高校生の地域医療体験学習の教育機関として手を挙げていただけることを臨む。



座長

第2回日本地域医療学会 学術集会  
学会長 江角 悠太 (えすみ ゆうた)  
公益社団法人全国自治体病院協議会志摩市民病院長  
日本地域医療学会 理事

12月17日(日) 屋外

## 屋外 志摩ロゲイニング大会

「せっかくだから、志摩を冒険してみよう!!!」

ロゲイニングとは、オーストラリア発祥のナビゲーションスポーツ。地図を片手に指定されポイントを周り、いかに多くの得点を獲得するかを競う競技です。今回、志摩市全域をフィールドに5人1組でチームを編成します。チームメンバーは主催者がランダムに決めさせていただきますので、1人で参加されても全く問題ありません。

メンバーとチェックポイントが書いてある地図は、2日目の懇親会の際に発表いたします。

その後、チームごとに作戦会議していただき、競技時間は3日目早朝6:00~11:00ですが、朝6:00以降、何時にスタートしていただいても構いません。ネットには情報が載っていない場所ほど点数が高く、住民の皆さんから情報を仕入れることが重要なキーになってきます。上位3チームには豪華賞品を用意しておりますので、ぜひみなさん、頑張ってください!!!

### 参考サイト

<https://www.kanko-shima.com/event/4346/>

